

京都〈ゆうゆうの里〉入居者インタビュー

〜今がいちばん幸せです〜

岸田 英子様 (82歳)



今回は、里でいつもにこやかに暮らされている、入居1年10カ月目の岸田様にお話を伺いました。

新たな出発

姑が子宮がんで他界して5年後、夫は食道癌のため48歳で亡くなりました。その頃から30年余り携わってきた、自殺防止センターのボランティア活動で会得したことは、『どんな辛い人生であっても無駄なものはない』という事でした。自由のなかった生活に、これからは何でもやってみようと思う勇気を与えてくれました。仕事の合間に、社交ダンス、習字、絵画教室に通い、忙しいけれど充実した毎日でした。二人の子供もボーイスカウト活動に励み、優しく、逞しく育ってくれました。友人の一人が老人ホームの契約を

したと聞き、自分も老後の事を考えるようになりました。新聞で、京都〈ゆうゆうの里〉の事を知り、すぐに見学に参りました。スタッフさんの細やかな対応に感激したのを、今でも覚えています。安心の介護体制があるのももちろんですが、里の自然豊かな環境がとても気に入りました。シャツルバスで自由に出かけられ、里の中でもジムやサークルが楽しめるように感じました。こなら子供達に世話をかけずに、残された人生、安心して生きていけると思い、入居を即決しました。



社交ダンスの発表会にて

今を楽しむ

入居してからは、自由がいっぱいでとにかく楽しい毎日です。『今この時が一番若い時。できる事があれば何でも』の精神で気になるものは何でも挑戦したいと思っています。

最近挑戦しているのはカラオケ。自分の喋る声が小さいのを克服したくて、カラオケサークルに参加させていただいています。昔は歌えるような心境じゃなかったから歌も全然知らないのです、新しい歌を楽譜付きで教えて下さるのが何より有り難いです。「最近声が大きくなったね」と言われるようになって、嬉しく思っています。



カラオケサークルメンバーで発声練習中

いつかまたやりたいと思っていた社交ダンスも、里のサークルに参加させていただいています。昔やっていた当時の雰囲気が残ります。



自作の墨彩画「深淵」

入居しても、それまでの人間関係を断ち切る必要はなく、以前から習っている大阪の墨彩画の教室にも続けて通っています。最近、宇治市の生涯学習センターの史跡を歩くウォーキングにも参加しています。昔からの友人に加え、新しい友人が、里の中にも外にも広がっていきます。人生の中で今がいちばん幸せです。



いつも新しい事にチャレンジされる岸田様。これからも彩りのある人生を謳歌してください。